

ネットワーク長野県史料協

平成20年度総会ならびに

第1・2・3回文献史料活用講習会報告

県史料協事務局 児玉 卓文

1 平成20年度

長野県史料保存活用連絡協議会

本年度の総会は、平成20年6月27日（金）に、長野市公文書館において開催しました。

長野市公文書館は、平成19年11月20日に、旧NHK長野放送局の建物を利用した長野市城山分室の一角に開館しましたが、限られた施設内を他の機関と共存しながら活動しています。今回の総会場となった当分室の大会議室は放送局の大スタジオだった部屋でしたので、少々いつものとは異なった雰囲気の中で行われました。

総会后、「長野市公文書館の活動報告－歴史資料の利用・保存に向けて－」と題して、長野市公文書館の野田寿一さんに、長野市公文書館の概要についてお話いただき、宮澤邦典さんには、当公文書館が収集対象とする歴史公文書の考え方や公開判定など業務の事例をお話いただいたあと、2グループに分かれて、館内の施設を見学しました。

長野市公文書館は、平成15年3月24日に、長野市展示公開施設整備委員検討委員会が、市誌編さん資料の活用に関し、公文書館の整備を提言したことに始まり、17年4月1日には公文書館準備担当が設置されたわけですが、その間の経過と構想については、平成16年の当協議会総会の際に報告をしていただきました。

2 平成20年度資料保存活用講習会

長野県立歴史館と共催で2回の講習会を計画し実施しましたが、2回目の講習会の準備段階で実技講習の要望があり、急きょ3回目の講習を計画して実施しました。

第1回講習会は、総会に引き続き長野市公文書館を会場に、上越教育大学准教授浅倉有子

先生に、「近世・近代における大名家の宝物管理」と題して講演をいただきました。文字情報がどのような秩序の中で伝来したかを上杉家と真田家の宝物管理の豊富な史料を提示しながら、近代の旧大名家の変容、それに伴う移動と管理についての研究が不十分で宝物の研究は途上にあること、宝物と文書記録との対照が困難なことなどをお話いただきました。

県立歴史館では21年度夏季展「信州 知の遺産の系譜－歴史を記録した先人たち－」を計画していますが、『信濃史料』の基礎を築いた栗岩英治は史料調査に幾度も米沢を訪れており、県行政文書中に先生のお話中にあった「上杉家の赤筆笥」の件などの消息文が綴られています。

第2回講習会は、10月17日（金）に県立歴史館で開催しました。午前は2件の報告をいただきました。



三溝恵子氏

歴史館文献史料課長から、「県立歴史館の最近の収集資料について」と題して、歴史館の行政文書収集過程とその数、古文書の収集については、寄贈をいただいた文書群の概要、県外流

平成20年度文献史料保存活用講習会報告

出史料とその購入状況、及び現代史料として「長野県農民運動史編さん関係資料」の寄贈があった旨が報告されました。

平成5年に古文書館を併設した伊那市高遠町図書館司書の三溝恵子さんからは、「高遠町図書館の資料収集と活用について」と題して、文政13年(1830)の「高遠文庫」以来昭和61年(1986)の町立図書館に至る経過、年間の古文書閲覧が80件、レファレンスが125件に及ぶ利用状況、また古文書教室の活動などの報告のほか、6350冊に及ぶ旧藩校「進徳館」蔵書の保存と収集、目録作製と利用の報告をいただきました。この報告は、日頃あまり知る機会がない地域の機関の地道な活動として非常に示唆に富むものでした。



新井浩文氏

午後の講演は、埼玉県立文書館の新井浩文さんに、「現代資料保存事情 — マイクロ化デジタル化 —」と題してお話をお願いしました。新井さんは、資料保存は図書館と文書館に共通する課題ではあるが、酸性紙劣化の問題については、双方には対象資料に相違があり、処理計画は予め要所を踏まえることを留意すべきとしつつも、基本は環境の整備にあることを強調されました。紙記録の代替化としてのマイクロフィルム化についても、劣化は避けられず、保存環境について担当者の努力と気配りが必要であることを強調されました。近年全盛のデジタル化についても、PC機器(ハード)とソフトの関

係やその技術が日進月歩の中で更新の作業量や費用面の問題があり万全ではないことなどを指摘され、対象となる代替物を、保存の側面だけでなく活用や公開性等を勘案しながら選択して利用することを提案されました。



第3回講習会風景

第3回講習会は、12月3日(水)に長野市公文書館を会場に、国立公文書館修復係長の有友至さんと修復員の中島郁子さんをお願いして、破れの修復、しわ伸ばし、裏打ちなど古文書修復の基本の実技講習を実施しました。



修復の道具と講習風景

上田市における資史料保存の三形態

私が現在及びこれまでの職場で関与した資史料保存の形態を紹介します。

花月文庫 … 原本保存(一部マイクロフィルムやデジタル化も)

花月文庫は飯島花月氏が残されたものです。氏は第十九銀行の頭取として第六十二銀行が合併して「八十二銀行」となる直前に69歳で病に倒れてしまいました。商業会議所の会頭も勤められた財界人です。本名は保作で文久3(1863)年に上田に生まれ、多趣味で、業務の合間に江戸文芸や郷土史の研究者としてまた庶民文学の作家として広く多種多様の書籍を集め、自身が読まれていました。

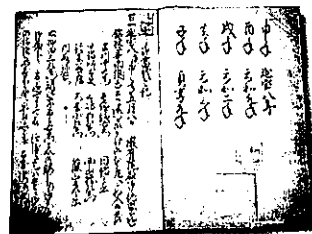
氏の没後、これらが売りに出されることになりましたが、まとめて買える人が近郊におらず、ばらばらに買い取られる恐れが生じました。生前から氏の蔵書は研究の宝庫であることが知られていたため、この文化財としての貴重資料の散逸を防ごうと市で買い取ることが議論されました。そして上田図書館で収集保管し、研究者たちの閲覧に供することになりました。現在の博物館はまだありませんでした。

「花月一万冊」と言われた江戸文学、江戸庶民文化を伝える和本、明治以降の洋本が、昭和26年8月から都合35万円で図書館に引き取られました(一部は既に市内別所温泉の『柏屋別荘』が収蔵)。そして28年6月27日の図書館創立30周年祝賀式にて市民に披露されました。

延宝8年(1680)から元禄15年までを記録した戸田茂睡の日記『御当代記』や議会政治を提唱した赤松小三郎の資料など貴重なものがあります。他に所在が知られていないものも270点以上確認されており、分類目録も平成15年3月に改訂版を発行しています。

上田市立上田図書館長 坪田 秀彦氏

一部は国文学研究資料館によりマイクロフィルム化が行われました。また、上田市マルチメディア情報センターによりデジタル化され、インターネットで閲覧できるものもあります。(デジタルライブラリー
<http://www.echol.gr.jp/digilib/index.html>)



【御当代記】(史・163)
戸田茂睡(もすい)の日記本6冊。
明治初年頃の幕政から市までの出来事
の記録で、歴史研究の根本史料として
高い価値が認められている。



「柳樽」他(花月文庫)

なお、現存している「臨泉楼 柏屋別荘」様所有の花月文庫についても、平成21年4月2日(木)に上田図書館へ御寄贈いただきました。

『上田市誌』編さん時の史資料 … マイクロフィルム及び紙焼き史資料

合併前の上田市では、平成11年の上田市制施行80周年記念事業の一つとして『上田市誌』の編さん刊行が進められました。

これは昭和15年の『上田市史』が発行され

て以来のことで、平成6年から故黒坂周平氏を編さん委員長に、大勢の方々が調査、執筆、校正をされ、平成16年に全31巻が完成しました。全



紙焼き資料の保管室

国的にも珍しい一冊ずつ持ち運びも容易な分冊形式を採用しました。

この調査過程では、市内の旧家等に所蔵されている史資料の収集作業が精力的に行なわれました。そして、お借りした資料をマイクロフィルムに撮影し、フィルムと紙焼き史料をバインダーに整理して保存しました。

撮影したものは近世史料が『本陣日記』『問屋日記』など160余家からの約25万枚、近現代史料が石神自治会をはじめ150余家からの約15万枚を数えます。

これらは『上田市誌』執筆のための許可しかもらっていないものも多く、一般に公開することはできませんが、現在も市の教育委員会第2庁舎に大切に保存されています。

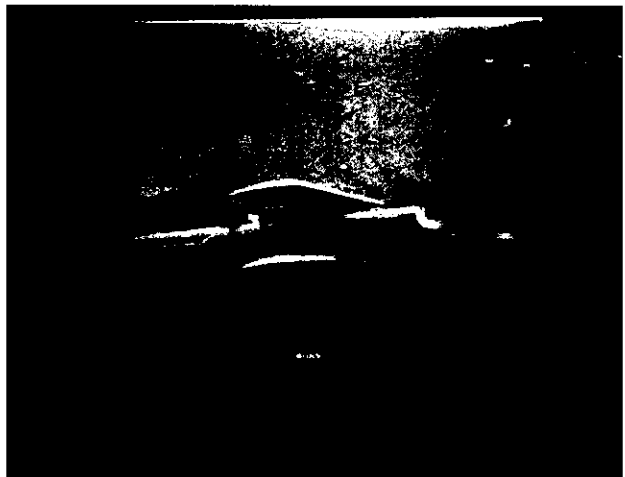
上田市マルチメディア情報センターのデジタル映像 … デジタルアーカイブ (part1)

情報都市を標榜する上田市では、平成7年8月に上田市マルチメディア情報センター（愛称：メディアランドUEDA）をオープンしました。仮面ライダー等の生みの親故石ノ森章太郎氏が名誉館長に就任され、地域情報化の拠点として様々な啓発・創造事業を行ってきました。

その1つに、地域の過去の映像情報をデジタル化して保存、再生する「地域映像デジタルアーカイブ事業」があります。地域に残る過去の写真や記録映像を、その地域の「時代」を写し撮った貴重な文化にとらえ、地域の歴史や文化に関連する映像作品を収集しました。劣化による変質や滅失の恐れがあり、蔵の片隅に埋もれていたものを甦らせたものです。

また映像作品としても、上田地域の産業技術を記録した「農民美術」「蚕種製造技術」や民話の語りなどを制作したほか、長野県を題材にしたニュース映画や記録映画など105作品をDVDビデオ8枚に収録しました。

そしてこれらの成果は小・中学校が地域学習の中で活用できるほか、公民館を始めとする公共施設にも提供しています。



上田情報ライブラリー（駅前図書館）における地域映像のVOD(ビデオ・オン・デマンド)画面から「上田飛行場」の「愛国信濃号」

<参考文献>

- ・上田市図書館日記
- ・飯島保作と花月文庫 八十二文化財団
平成7年3月発行
- ・上田市誌編さんのあゆみ 上田市誌刊行会
平成16年11月発行
- ・上田市デジタルアーカイブポータルサイト
<http://museum.umic.jp/>

史料保存の現状と課題

～大祝諏方家文書を事例として

諏訪市博物館 関沢佳久氏

諏訪市博物館には、江戸時代まで諏訪上社の大祝をつとめた諏方家に伝わる文書群約 5,000 点が収蔵されています。大祝とは、本来神職を意味する言葉ですが、諏訪社の大祝は神の直系の現人神とされてきました。上社大祝家は、神（みわ・じん）家を称し、代々祭政にあたとたされています。大祝は、諏訪郡外へ出ないという不文律もあったと言われています。

大祝諏方家文書は、中世から近世にかけての諏訪社の祭祀、造営、神領や御渡の記録、日記類、絵図など諏訪社を知る上で重要な史料を多く含んだ文書群であり、諏訪大社上社の門前に位置する当館にとっては重要な収蔵資料の一つであるといえます。

現在、大祝諏方家文書は、常時温湿度の管理が可能な収蔵室に屏風や掛軸などの史料とともに保管されています。収蔵室については、ほとんどの収蔵史料がクリーニングと燻蒸を終えてから保管されているので、虫や黴などの発生については問題ないものと認識しておりますが、諏訪市史編纂室から移管された約 1000 点については、当館への移管以前の段階で文書一点ごとにラベルが貼られており、展示や貸出などで



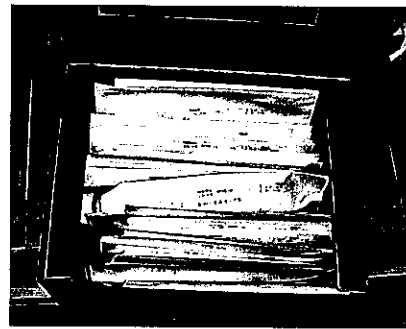
大祝諏方家文書が収められている棚



ブリキの箱内は裸の状態で見られる

環境が変わった際の粘着部分の変化などが気になるところです。

また、一部の重要史料については、一点一点を中性紙の封筒に入れ、ダンボールへと入替えが行われていますが、ほとんどのものはブリキ製の箱の中に裸で積み重なっている状態にあります。



ダンボールは中性紙封筒で整理されている

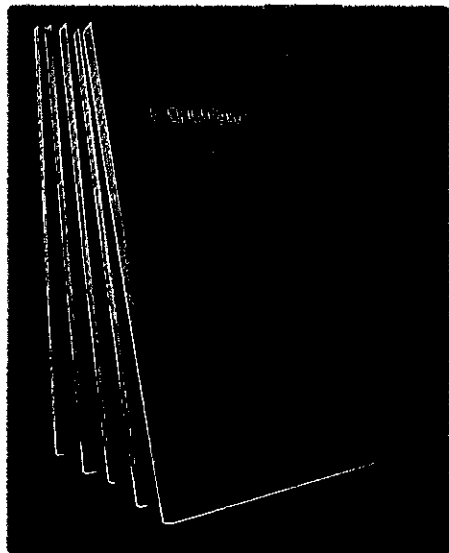
おそらく、保存するだけであれば、特に問題はありますが、研究調査や閲覧など史料を出納する際に大きな負担をかけてしまう可能性が高いため破損や欠損の恐れがある場合は閲覧をお断りさせていただくこともあります。したがって、この点に関しては、できるかぎり早急に史料一点一点を中性紙の封筒に入れていく作業を進めていかなければならないと考えております。

なお、元は同じ史料群であるものの、館への収蔵時期を異にする約 4000 点については、目録作成作業が急務の課題です。

当館では、大祝諏方家文書のほか、神宮、藩士、商家など多くの文書群を保管していますが、今後も増えていくことが予想されます。何とかしなければとまらないと思いながら、文献史料の保存と活用の両立を意識しながら最善の方法がないか検討しているところです。

長野県立歴史館収蔵史料目録刊行案内

新たに収蔵史料目録を刊行しましたので、ご利用ください。



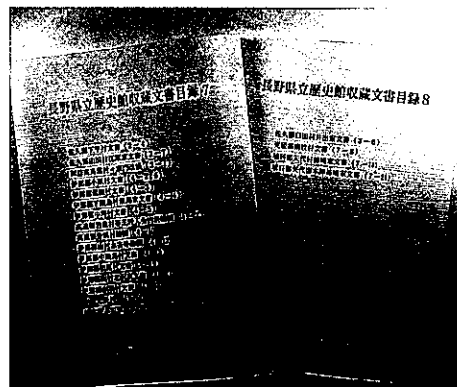
- 『長野県史収集史料目録 1』 「近世写真史料 1」 700 円
上田領、小諸領、岩村田領、祢津知行所、矢沢知行所、幕府領、小諸領、岩村田領
- 『長野県史収集史料目録 1』 「近世写真史料 2」 800 円
田野口領、祢津知行所、下県知行所、高野町知行所、根々井知行所、徳川忠長領、板倉領、甲府領、幕府領・含松本御預所、丸山史料
- 『長野県史収集史料目録 1』 「近世写真史料 3」 1000 円
高島領、諏訪上社領、諏訪下社領、高遠領、飯田領、近藤知行所、太田知行所、幕府領
- 『長野県史収集史料目録 1』 「近世写真史料 4」 800 円
飯田領、高須領、白河領、知久知行所、知久分知行所、知久御預所
- 『長野県史収集史料目録 1』 「近世写真史料 5」 1000 円
座光寺知行所、小笠原知行所、近藤知行所、近藤分知行所、井上知行所、宮崎知行所、宮崎御預所、千村御預所、幕府領、寺社領、遠州史料

『長野県立歴史館収蔵文書目録 7』 800 円

収録文書：佐久郡下平村文書、同郡山田村江原家文書、諏訪高島藩村々宗門改帳、伊那郡小原村文書、同郡温田村文書、同郡下殿島村飯島家文書、同郡中坪村文書、同郡山村水害等絵図、同郡中殿島村文書、同郡田原村文書、同郡山村北沢家文書、同郡赤羽村文書、高遠領岩垂村等芝野入会内済絵図、同領文郷村絵図、中川元資料、松本町本町猿田家（遠州屋）文書

『長野県立歴史館収蔵文書目録 8』 800 円

収録文書：佐久郡白田村井出家文書、更級郡南牧村文書、埴科郡矢代村柿崎家文書、同郡矢代宿本陣柿崎家文書



編集後記

「ネットワーク史料協9号」をお届けします。お忙しいなか、原稿をお寄せいただいた方々に感謝いたします。

本年度は例年より1回多く講習会を開催させていただきました。年々アーカイブズという言葉も認知度を増していく中で、各機関でも資料保存に対する関心が高まっている様子。それは資料保存講習会の参加者が年を追うごとに増加していることによってもうかがえます。

事務局としても、少しでも皆様の保存・整理の業務に役立つ情報をこれからも発信していきたいと思っています。

21年度も皆様のご協力をいただきながら活動を進めていく所存ですので、なにとぞよろしくお願ひします。

お知らせ

- ◇平成21年度長野県史料保存活用連絡協議会総会
7月初旬（予定） 上田市立図書館
- ◇平成21年度長野県立歴史館文献史料保存活用講習会
10月23日（金） 長野県立歴史館

事務局 長野県立歴史館 文献史料課
〒387-0007 千曲市屋代清水260-6
TEL 036-274-3993 Fax 026-374-3990